



1 後継牛確保のための環境整備
22.1億円(前年度21.1億円)
後継牛の育成等のための簡易畜舎整備、機器導入、つなぎ牛舎の改良、育成牛の事故率低減(ワクチン1千円/頭)、供用期間の延長支援(肢蹄保護、乳房炎ワクチン等、1千円/頭)、後継者への経営基盤強化(初妊牛導入5万円/頭)、暑熱ストレスの軽減、乳用牛の地域内継承・育成牛の地域内流通促進(奨励金3万2千円/頭)、増頭に必要な牛舎の空きスペースの簡易な整備、都府県の自家育成中小農家の生産基盤

2 事業の内容
中小酪農経営等の生産基盤維持・強化

1 事業の目的
わが国の酪農は、高齢化等により酪農家戸数や飼養頭数が減少し、後継牛不足も深刻化するなど生産基盤の弱体化が進行しています。このため、生産者集団等が行う地域の創意工夫を生かした取組を支援し、担い手や乳用後継牛を確保していくとともに、経営の持続性の向上を図り、地域の実情に応じた酪農生産基盤の維持・強化を図ります。

2 酪農生産基盤強化のための総合対策(ALIC事業)

1 酪農ヘルパーの利用拡大
10.1億円(9.0億円)
①酪農ヘルパーの職業認知度向上、修学支援(月額最大12万円以内、国内負担額6万円以内)×最大2年、学生インターンシップの受入、人材コンサルタントの活用、就業前後の研修や外国人材の活用等の人材確保・育成、②酪農家の傷病時等(病気事故、出産等)の利用料金を軽減するための互助基金制度、③広域利用調整、酪農ヘルパーの待遇改善(最大3万円/月×12カ月)や利用組合の経営改善等の利用組合強化の取組を支援します。

2 地域の生産体制の強化
4.1億円(5.0億円)
生産基盤が脆弱な地域において持続的な生乳生産体制を確保するため、(ア)経営離脱農家等を研修施設として活用した担い手の確保、(イ)将来にわたって持続可能な経営体の創出、(ウ)後継牛の地域内生産(後継牛バンク)、(エ)後継牛育成のための広域預託(上限6.9万円/頭)を推進する取組等を支援します。

3 生乳流通体制の合理化の推進
4.9億円(5.1億円)
生乳流通コストの生産者負担を軽減するため、①生乳生産者団体等が行う「生乳流通合理化計画」等の検討・作成、②生乳流通関係機器のリース導入、③貯乳施設の減容化・需給調整機能を持たせるために必要な補修、④乳代精算方法の効率化等の取組を支援します。



4 乳用牛の計画的な改良・増殖の推進
4.4億円(4.4億円)
牛群検定組合等が行う遺伝情報(SNP)データの収集等の取組、乳用牛の飼養管理に係る技術指導等を支援します。

中酪 VOICE

日本酪農の最前線的话题をご紹介します



加工原料乳生産者補給金単価等の推移

	2019年度	2020年度	2021年度
補給金単価	8.31	8.31	8.26
集送乳調整金単価	2.49	2.54	2.59
交付対象数量	340	345	345

単位:円/kg、万トン

1 加工原料乳生産者補給金等
2021年度の加工原料乳生産者補給金単価は、前年度の1kg当たり8円31銭から5銭減の8円26銭、一方、集送乳調整金単価は5銭増の2円59銭とし、両単価を合わせると前年度並みの10円85銭に決まりました。

2 集送乳調整金単価の算定
集送乳調整金単価は、全国の指定事業者における加工原料乳の集送乳経費及び集送乳量の各々の変動率から求めた「集送乳コスト等変動率」

1 補給金単価の算定
加工原料乳生産者補給金単価は、加工原料乳地域(生産される生乳の相当部分が加工原料乳であると認められる地域(北海道)における生産費及び乳量の各々の変動率から求めた「生産コスト等変動率」を「前年度の補給金単価」に乘じて、「当該年度の補給金単価」を算定しました。

2 集送乳調整金単価の算定
集送乳調整金単価は、全国の指定事業者における加工原料乳の集送乳経費及び集送乳量の各々の変動率から求めた「集送乳コスト等変動率」

3 補給金交付対象数量の算定
補給金交付対象数量は、乳製品向けに必要な生乳供給量として、脱脂粉乳・バター等、生クリーム等の液状乳製品及び国産ナチュラルチーズの消費量等から推定される推定乳製品向け生乳消費量から、カルントアクセス輸入量およびTPP11日EU・EPA関税割当数量を控除して算定しました。

た。加工原料乳生産者補給金の交付対象数量は、前年度並みの345万トンとなりました(表参照)。

2021年度の加工原料乳生産者補給金単価は、前年度単価(8円31銭)に、搾乳牛1頭当たり生産費の減少や乳量の増加を反映した変動率(0.9937)を乘じて、5銭引き下げの8円26銭となりました。

2021年度の集送乳調整金単価は、前年度単価(2円54銭)に、集送乳単価の増加や集送乳量の減少を反映した変動率(1.0203)を乘じて、5銭引き上げの2円59銭となりました。

を「前年度の調整金単価」に乘じて、「当該年度の調整金単価」を算定しました。

2021年度の集送乳調整金単価は、前年度単価(2円54銭)に、集送乳単価の増加や集送乳量の減少を反映した変動率(1.0203)を乘じて、5銭引き上げの2円59銭となりました。

2021年度加工原料乳生産者補給金等の概要

農林水産省は昨年12月10日、食料・農業・農村政策審議会に対し令和3(2021)年度畜産物価格等について諮問を行いその答申を受け、加工原料乳生産者補給金を8円26銭(前年度比5銭減)、集送乳調整金を2円59銭(同5銭増)、合計で10円85銭の据え置きに決定しました。また、畜産物価格関連対策のうち「酪農生産基盤強化のための総合対策」は、45.7億円(前年度44.5億円)に拡充しました。